

令和5年度 校内研究

1 テーマ 〈3年計画 1年次〉
子どもの理解や思いを大切にした授業づくり ～各教科の視点を取り入れて～

2 研究の目的

子どもの理解を見極めること、確かめることは授業づくりをしていく上で大切であり、それがよりよい授業や目標の設定、評価につながる。私たちは授業をするとき、教育を受ける子どもが、何ができて何ができないのかを見極めて授業をしているだろうか。また、毎年、同じ単元・題材を繰り返して設定し、指導内容・方法がマンネリ化していることはないだろうか。

そこで、よりよい授業づくりのために、教育を受ける子どもの立場になって、子どもの理解や思いを見極めながら、どのように指導していくとよいかを考える。その中で、学習指導要領にもとづいて各教科の視点を取り入れ、子どもが各教科で得られた知識を活用したり、問題を見いだして解決策を考えたりできるような授業づくりに取り組む。また、他の教科で身に付けた資質・能力の活用を促すことで深い学びにつなげられるようにする。

3 今年度の研究

(1) 研究の概要

授業シート(簡単な学習指導案)を活用しながら、学習活動場面での対象児童生徒の行動や言動を推測し理解や思いを考える。その理解や思いに基づいて、教師からの問いかけや仕掛け、児童生徒が考える場面と教師が教える場面などを考え、児童生徒の気づきや学びを促すようにする。授業シートを作成する際には、ねらいと関連する学習活動について各教科の視点を確認できるようにする。

研究会は、実際の児童生徒の具体的な様子をVTRで振り返りながら、児童生徒の様子と理解について考察し、次の授業や単元などのまとまりで授業改善を行えるようにする。

今年度も、金沢大学人間社会研究域学校教育系教授の吉川一義先生を外部講師としてお招きし、研究担当者に研究の進め方や考え方についてご指導いただいたり、授業参観、研究会でご助言いただいたりすることで、研究についての学びを深める。

(2) 年間計画

月	研究推進担当者会	学部学年ごとの研究会	全体の研究会	研究研修推進委員会
4	・年間計画の立案			
5	・授業シートの検討	・研究計画の提案		
6	・吉川先生との検討会①(オンライン)	・対象児童生徒の実態、授業について話し合う		6月 第1回
7		・グループごとに授業研究会		
9～12	・研究状況の確認と調整 ・吉川先生との検討会②③	・10月、12月吉川先生来校(授業参観、授業研究会助言)	9月 中間報告会	
12		・学部ごとに研究内容についてのアンケート		
1	・くまんどう検討	・研究のまとめ、くまんどう原稿作成		
2	・来年度の研究内容について検討			2月 第2回
3				

(3) 研究体制

研究推進委員会(管理職、教務部長、舎務部長、図書研究部長、各学部学年主任、寄宿舍指導員主任、寄宿舍研究担当、図書研究部研修担当)で校内研究に関する事柄について協議する。

図書研究部の研究推進担当者で取り組み内容や進捗状況の確認と調整を行いながら進め、必要に応じて研究推進担当者会を実施する。

学部学年ごとの研究会は、小学部低学年、小学部高学年、中学部、高等部各学年のそれぞれで月1回程度、研究会を行う。

寄宿舍研究は、校内研究テーマに沿った内容ではなく、前年度から継続した研究内容に取り組む。

(3) 取組み内容

研究は、小学部低学年から高等部まで、各学部単位で行った。各学部で二つのグループに分かれ、対象児童生徒は、グループから1名とした。研究対象授業は、小学部低学年から中学部は、遊びの指導や生活単元学習などの教科・領域を合わせた指導、高等部は、日常生活の指導と美術で取り組んだ。

授業シートの作成は、学習活動ごとにどの教科・項目・内容に関連しているかを確認しながら記入し、授業内容やねらいの設定を見直す機会となるようにした。学習活動ごとに、対象児童生徒の予測される行動となぜそう考えたか(対象児の理解・思い)、それにもとづく支援と仕掛けを考えて記入し授業に臨んだ。研究対象の授業をビデオ撮影し、実際の対象児童生徒の行動はどうであったかを授業シートに記入してから研究会を行った。授業日と研究会が同日の場合は、研究会でVTRを視聴しながら実際の行動を確認した。研究会で次時の授業での支援を見直し、次時の授業シートを作成して授業を行った。

研究会は、対象児童生徒の単元のねらいと見てほしいところ、話題にしたいところに関連する場面を中心に対象児童生徒の理解や思いについて話し合い、それにもとづいて支援を見直したり授業での仕掛けを考えたりして授業改善を行った。

4 今年度の研究を終えて

今年度から新しいテーマでの取組みとなったが、子どもの理解や思いを大切にするという点は昨年度までの考え方を継続し授業づくりに取り組んだ。昨年度までの取組みの中で、子どもの理解を教師集団で共通理解して指導に当たること、子どもの実態となる行動や言動からその背後にある思いや理解を推測して実態を把握することは理解されていた。

今年度、各学部の研究担当者が一新し、新たなメンバーで授業シートを作成した。校内で統一したシートを使って研究に取り組むことで、研究担当者同士が共通理解しながら研究を進めていくことができた。授業シートは、授業の学習活動ごとに「各教科の視点」「対象児童生徒の予測される行動や言動」「なぜそう考えたか対象児童生徒の理解・思い」「仕掛けと支援」「児童生徒の様子」の項目で授業者が記入して研究会を進めた。子どもの立場になって、子どもの理解や思いを見極めながら、どのように指導していくとよいかを考え授業づくりをしているつもりでも、授業シートを書いて授業を行ってみると、教師が考えていた児童生徒の理解にもとづく行動が見られなかったりねらいとしていたことができなかつたりしたこともあったが、複数の教師集団で話し合うことで授業を見直していくことができた。研究会で授業のVTRを視聴しながら児童生徒の行動にもとづいた理解や思いについて話し合い、実態を見直したうえで次授業での仕掛けと支援を考えられたことは有意義だった。対象児童生徒の予想通りの行動や言動が見られ、ねらいを達成できた事例もあったが、当該教科の次のステップへの支援を話し合ったり、他教科や卒業後を見据えた活動への繋がりについて話し合ったりすることができた。

校内研究に対するアンケートには、動画を撮り見返すことで、児童が何を思っていたのかを想像したり、児童が何ができて何ができていないかを考えたりすることができた。他の授業でも何をねらうかやどのような活動を行うかを考える際に生かすことができた。吉川先生から言語化することの大切さを教えていただき、子どもと関わる際に意識するようになり、日々の積み重ねを大切にしていきたい。など研究会で得られたことや気づいたことを自分自身の授業や関わりに生かしたということが多くあった。

サブテーマの「各教科の視点」については、新たな取組みであり、1年次の今年度は、他教科との繋がりを意識して授業を行うことに気づくことができた。アンケートには、各教科の視点から授業をみると、非常に多くの場面で様々な教科が関わっているのだと感じた。授業の目的やねらいに応じて、生徒の学びの機会を増やしていけるとよいと感じた。など気づきがあったという意見が多かった。授業シートを作成する際に、各教科の視点を確かめながら授業を考えることができたが、授業提供者の他の教師は、各教科の視点について考えたり深めたりすることはできなかつたと言える。この点については、来年度の課題である。